263.5
37

始

# 研究報告

熊本縣女子師範學校附屬小學校内教科研究會編

# 小學校ニ於ケル作法教授法要綱及細目

視形龍雲堂

263.5-37

帝國圖書館藏

# はしがき

響き渡る警鐘は曩に姑息と貶され、退嬰と罵られた女子教員をして正に自奮自彊の態度を採るに至らしめた。

吾人の所見に依れば現代は女教員を非難し、攻撃し、其の隱退を迫るの時期ではなくて之を鼓舞し、誘導して其の自覺ある活動を促し以て天與の教育力を發揮せしむるの時期である。此の立場から見れば過去數年間の女教員問題は確かに功を收め得た、則ち今や女教員諸氏に依つて或は裁縫科上進の方途が論ぜられ、或は家事教授の施設が討議せられ又或は作法教授の研究が漸く盛んならんとするに至つた。斯の如きは皆これ女教員諸氏が其の正に辿るべき道程に上り軈ては我が教育界に缺くべからざる地歩を占むべき曙の光である

吾等は此の趨勢を讃美し、喜悅し、祝福するの微衷より、曩には

大正 4 内交

『裁縫科の研究』を發表し、續いて『裁縫科筆記帳』を公にし、今又茲に『作法教授法要綱並に細目』を印刷に附し諸賢が机下に呈せんとする。素より低劣の頭腦、杜撰の誹は豫期するところであるが而も何程にても諸賢の參考の資となり、批評の種となり、研究討議の材料となり以て本科向上の一助ともならば吾等同人の望外の喜とするところである。

因に本書所載、尋常五年以上の教授細目は女生徒用のものである、男生徒用のものは紙數の都合上登載を見合じたことを念のため附記したく

大正六年五月

熊本縣女子師範學校附屬小學校教科研究會代表者
生田五郎

# 小學校に於ける作法教授法要綱及細目

## 目次

**第一、作法教授法要綱**
一、修身科教授の要旨より見たる作法教授の位置……一
二、教材の選擇及び排列……二
三、教授細目の種類及び其の調製上の注意……三
四、教授上の注意……五
**第二、尋常科第五學年以上に於ける教授細目**
一、尋常科第五學年以上特設作法系統表(女子)……七
二、尋常科第五學年……一二
三、尋常科第六學年……二三
四、高等科第一學年……四〇

五、高等科第二學年……四七
第三、尋常科第四學年以下に於ける修身附帶作法事項
一、尋常科第一學年……六三
二、尋常科第二學年……七三
三、尋常科第三學年……八五
四、尋常科第四學年……九六

# 小學校に於ける作法教授法要綱及細目

熊本縣女子師範學校附屬小學校 教科研究會編

## 第一 作法教授法要綱

### 一、修身教授の要旨より見たる作法教授の位置

一、作法は道德實踐形式の修練なり、行爲の形式即ち言語擧動を道德的に表出する方法を授けて之を練習し終に習慣たらしむるを以て作法教授の任務とす。

二、作法は外的陶冶より內心の陶冶に及ぶ德性涵養の方法なり。內心の情況が吾人の身体的に表出せらるゝと等しく身体的態度が內心に及ぼす影響の鮮

少ならざるは吾人の夙に經驗する所なり、乃ち外的身体的修練より内的精神陶冶に及び德性涵養の實を擧げんことも亦作法教授の閑却すべからざる一任務なりとす。

## 二、教材の選擇及び排列

### 一、選擇

(1) 國定修身書教師用の說話要項及注意事項中より選擇すること。

(2) 文部省制定小學校作法教授要項に準據すること。

但し高等學年に於ては師範學校中學校作法教授要項を參照すること。

(3) 兒童の現在及將來に亘り其の地方に適切にして且つ必要なるものにつき選ぶこと。

(4) 學校訓練事項中より選擇すること。

(5) 男女に依り斟酌すべきこと。

(6) 兒童心身の發達程度に應すべきこと。

### 二、排列

(1) 段階的排列と循環的排列とを併用すべきこと。





(2) 尋四以下にありては修身附帶を本体とし之に學校訓練事項を加味して排列すべきこと。

(3) 尋五以上にありては作法としての系統を追ひ特設教授を行ふことを主体とし傍、修身及學校訓練事項を參酌して排列すること。

## 三、教授細目の種類及其の調製上の注意

(1) 細目は左の三部に別ちて之を調製すること。

第一部。 尋四以下修身附帶。

第二部。 尋五以上女特設

第三部。 尋五以上男特設。（本書に於ては之を省く）

(2) 各部に於ける編纂上の法意。

第一部。

イ、教材は男女同一にして兒童日常の生活範圍よりこれを採ること。

ロ、修身書の各課につき右の方針により心得及實習の二方面より調査し之を修身科

細目の各週に配當すること。

ハ、學校訓練上より一定の時期に授くべき必要あるものは之を該週に配當すること

ニ、右二事項(ロ及ハ)を按排し尙實習事項なき週は基礎的事項の練習に充つる場合あること

ホ、一週凡そ三十分を作法に充て實踐指導を遺憾なからしむること。但し其の度數は教授の都合により適宜之を定むること。

第二、三部

イ、教材は男女別とし兒童の現在及將來に於て必要なりと認むる範圍内に於て之を採擇すること。

ロ、右の方針に依り左の三方面より心得及實習の二方面に別ち適切なる教材を選擇すること。

(a) 文部省作法教授要項

(b) 土地の風習上從來行はれたる事項

(c) 學校訓練事項



教授上の注意

ハ、右に依り採擇したる材料は兒童の發達程度を考慮し各學年に亘り系統を作り之を季節、教授事項の難易、土地の狀況を考慮して排列すること。

ニ、教授時數は女子にありては隔週一時男子にありては凡そ女子の半とす。

## 四、教授上の注意

一、作法は精神の發露たるを要するが故に形式を整ふると共に其の精神を沒却せしめざる樣注意すべし、故に附帶せるものは其の訓辭事項との結合を十分ならしめ學年の進むに從ひては其の精神の存するところを說き理由を指示して實習せしむべし。

二、成るべく口舌の教授を避けて善良なる模範を示さんことに努むべし、一の善良なる示範は百千の口舌に優るとは技能教科教授上の眞諦なりと知るべし。

三、一齊教授と個人教授との調和を圖るべし

四、反復練習して日常の行爲たらしむべし、從つて克く父兄と連絡し一致協力して指導督勵するを要す。

五、徒らに複雜なる形式心得に拘泥して行爲を檢束し日常生活に迂遠なるが如きことある

露光量違いの為重複撮影



べからす、要は現時の實際生活に於て不快の感、不安の念、不便の思を起さしめざるを程度とすべし。

六、教授用具の準備及後始末については兒童をして充分注意せしむべし。

七、教授時間内に於ける反復練習には限りあるものなれば教師は兒童日常の行爲を觀察して適當に批正督勵を加ふることを怠るべからず、又、式日、運動會、學藝會、遠足旅行等の場合は作法實習の絶好の機會なることを忘るべからず。

# 第二　尋常第科五學年以上に於ける教授細目

露光量違いの為重複撮影

べからす、要は現時の實際生活に於て不快の感、不安の念、不便の思を起さしめざるを程度とすべし。

六、教授用具の準備及後始末については兒童をして充分注意せしむべし。

七、教授時間内に於ける反復練習には限りあるものなれば教師は兒童日常の行爲を觀察して適當に批正督勵を加ふることを怠るべからす、又、式日、運動會、學藝會、遠足旅行等の場合は作法實習の絶好の機會なることを忘るべからず。



# 第二　尋常第科五學年以上に於ける教授細目

# 尋五以上特設作法系統表

| | 尋五 | 尋六 | 高一 | 高二（三） |
|---|---|---|---|---|
| 起坐歩行 | 1、立ち樣<br>2、坐し樣<br>3、歩み樣 | 1、2、3、復習<br>4、廻り樣（立ちたる塲合）<br>5、膝行 | 1、2、3、4、5、復習<br>6、廻り樣（坐したる塲合） | 1、2、3、4、5、6、復習 |
| 敬 立禮 | 1、普通禮<br>2、最敬禮 | 1、普通禮<br>2、最敬禮 | 1、2、復習 | |
| 敬 坐禮 | 1、普通禮<br>2、最敬禮 | | 1、2、復習 | |
| 敬 行き合ひの禮 | 1、同輩<br>2、目上 | 1、同上、傘及物品を持ちたる塲合<br>2、同上 | 1、2、同上復習 | |
| 敬 人の前を | 1、立ちたる塲合 | | 1、同上、尊長に | |

| | | |
|---|---|---|
| 禮 | すぐるの時の禮…… | 2、坐したる場合 |
| | 我が前をすぐにする人に對する禮 | |
| 戸障子の開閉 | 障子戸引襖 | 1、立ちたる場合 |
| | | 1、復習<br>2、坐したる場合 |
| | | 2、對する場合 |
| | | 1、<br>2、<br>復習 |
| | | 1、<br>2、 |
| 訪 | 座蒲團の進め方受け方 | 1、一枚づつ持ち出て丶進むる場合 |
| | | 1、二枚以上持ち出て丶進むる場合 |
| | | 1、一枚づつ持ち出て丶進むる場合 |
| | | 2、二枚以上持ち出て丶進むる場合 |
| | 茶の | 1、茶托にのせ一人づゝ進める場合 |
| | | 1、復習<br>2、盆にのせて進 |
| | | 1、<br>2、<br>復習 |
| | | 1、<br>2、 |



| | | |
|---|---|---|
| 問 | 進め方受け方 | |
| | 團扇の進め方 | 1、一人づつ進むる場合 |
| | | 1、復習 |
| | | 1、復習<br>2、二人以上に進むる場合 |
| | | 1、<br>2、<br>復習 |
| | | 3、茶の入れ方<br>4、湯のさまし方<br>5、茶のつぎ方 |
| | | 3、<br>4、<br>5、<br>復習 |
| 迎 | 菓子の進め方 | 1、銘々菓子進め方受け方 |
| | | 1、復習 |
| | | 1、復習<br>2、とり菓子の進め方受け方 |
| | | 1、<br>2、<br>復習 |
| | 煙草盆及火鉢の進め方受け方 | 1、煙草盆の進め方受け方 |
| | | |
| | | 1、復習<br>2、火鉢の進め方受け方 |
| | | 1、<br>2、<br>復習 |
| 接 | 案内及席の着仕方 | 1、先客なき場合 |
| | | 1、同上<br>2、名刺の出し方 |
| | | 1、<br>2、<br>復習<br>3、先客ある場合 |

| 祝 | 待 | | 招 | |
|---|---|---|---|---|
| 月正 | 方受け方 | 膳部の進め方 | コーヒーの進め方受け方 | 退出及送客 |
| | | | 1、コーヒーの進め方受け方 | 1、普通の場合 |
| 1、熨斗三方の進め方受け方 | | 1、普通膳部の整へ方<br>2、進め方受け方食し方<br>3、給仕の仕方 | ● | 1、復習<br>2、帽子及傘類をとりて進むる場合 |
| 1、2、3、復習 | | | | 1、2、復習 |
| 1、2、3、復習 | 7、酌の仕方 | 1、2、3、復習<br>4、吸物膳の整へ方<br>5、進め方受け方食し方<br>6、盃の進め方受け方 | | |



| 賀見舞吊問會葬祭忌 | |
|---|---|
| 式儀の | 物進 |
| | |
| 2、屠蘇の進め方受け方<br>3、クシヅケノ進め方受け方 | 1、見舞、祝賀、吊問、告送別の場合品物の撰定<br>2、金子包(吉、凶)<br>署式<br>3、物品包(吉、凶) |
| | 1、同上<br>2、金子包(吉、凶)<br>署式(復習)<br>本式<br>3、物品包(復習) |
| | 復習 |

# 尋常科第五學年

| 週 | 題目 | 教授事項 | 時間 | 要領 |
|---|---|---|---|---|
| 二 | 起坐<br>歩行 | 一、立ち樣<br>二、坐し樣<br>三、歩み樣 | 一 | 一、立ち樣<br>座を立つには兩手を膝に置き先つ兩足を爪立てゝ少しく右膝を立て徐に立ち上るべし（左足を出して足を揃ふ）<br>三、坐し樣<br>坐するには兩足を揃へ左足を少しく引き先づ左膝を突き次に右膝をつくと共に兩膝を揃へて坐すべし。出たる方の膝に揃ふること。<br>三、歩行の際は手は自然にたれ姿勢正しくして歩むべし。 |
| 四 | 敬禮 | 一、敬禮<br>普通禮（立坐）<br>最敬禮（立坐） | 一 | 一、普通立禮<br>普通禮は先づ立てる姿勢をとり次に上体を徐に前に傾け手は自然に下け其の指尖股の中邊に達するを度とす　但し殊更に頸を屈すべからす（三十度）<br>二、最敬禮<br>最敬禮は先づ立てる姿勢をとり次に上体を徐ろに前に傾け手は自然に下げ其の指尖を膝頭の邊に達するを度（四十五度）とし凡一呼吸の後徐ろに原の姿勢に復すべし　但し殊更に頸を屈し又膝を折らざるやう注意すべし。<br>三、普通坐禮<br>普通禮は先づ坐せる姿勢をとり次に兩手を膝前に八字形に置きて兩肘を膝の兩側に近づけ同時に徐ろに体を屈し顔を坐面に近からしむべし　但頸を屈して襟元をあらはすと腰をまぐるとは共に宜しからず（兩手指尖の距離と頭と坐面との距離は同一とす）<br>四、最敬禮坐禮<br>最敬禮は普通禮に準じて兩手の食指を互に |
| 六 | 同輩<br>目上 | 二、行き逢ひの禮<br>三、人の前を過ぐるときの禮<br>四、我が前を過ぐる人に對する禮<br>坐したる場合<br>立ちたる場合 | 一 | |
| 八 | | | | |

接せしめ額は畧指尖に達するを度とし凡一呼吸の後徐に原の姿勢に復すべし

五、行き合ひの禮

知人にあひたるときは少し手前にて禮をなし其のまゝ左にさけ通りすぐべし。

尊長に行きあひたるときは數歩手前にて禮をなし少し後れ左にさけて通りすぐべし。

六、人の前を通るときは先方が立ちたるときは其の儘會釋して通るべし。

又先方が坐したる場合は跪いてかろく禮をなし起ちて少し早足に通りすぐべし。

七、我が前を過ぐる人會釋したるときは答禮すべし。

八、敬禮は凡て對者に注目し精神をこむべし

| | |
|---|---|
| 訪問迎接 | |
| 一、座蒲團の進め方受け方 | |
| 一、進め方<br>イ、二つに折れるものは表を中にして折り折り目を手前にして兩手にて持ち出て客の前に至り手前に開きて正面より進むべし高さは帶の高さ位をよしとす。<br>ロ、折れざるものは左右の中央を兩手にて持ち出で其の儘すゝむること。 | 一〇 |
| 二、受け方<br>イ、膝を少しくあげて座蒲團を半ば引きこみ次ぎに膝をつきて適當のところまで進み坐すべし。<br>ロ、下りるときは手をつきて後方に下り蒲團は下座よこか又は後に直したくべし。 | 一 |
| 一、茶の進め方受け方<br>茶托にのせ一人づつ進める場合<br>一、茶の進め方<br>茶托に茶碗を載せて左掌に据ゑ右の手にて茶托の右の端をつまみ客の三尺計手前に坐し客の右膝の前三四寸位の所に正しく進むること、<br>一、同受け方<br>進められたる時は輕く答禮をなし主人の挨 | 一 |
| 同 | 一二 |

| | | |
|---|---|---|
| | 一四 | 挨拶をまちて呑むべし、茶を呑むには茶碗を右手にとり左掌にのせ右手をそへて飲むこと、 |
| | 同 | |
| | 一、團扇の進め方受け方使ひ方<br>扇子の進め方受け方使ひ方 | |
| | 一 | |
| | 一、左手の上に地紙を据ゑ右手を柄の端に添へて持ち出で客の前に至り右手を地紙の先にかけのの字にまわし地紙のところを持ち畳の上に進む此の際團扇の表を上にすべし。<br>一、受け方<br>進められたる場合は輕く會釋すべし、使ふべし。<br>場合は靜にとり上げ表を外側にし靜に使ふ | 一、進め方 |



第二學期

| | | |
|---|---|---|
| | 同 | |
| | 一、菓子の進め方受け方 | |
| | | |
| | 一、引き菓子の進め方<br>盆に半紙二枚を斜めに二つ折又は其の儘にして中央に形よく菓子を盛り羊羹等の類には | 一、盆 |

| | | |
|---|---|---|
| 二 | 四 六 | 八 |
| | | 同 |
| | 一、座蒲團<br>團扇<br>茶<br>菓子<br>右總合練習 | 一、煙草盆の進め方 |
| 一 | 二 | 一 |
| 一、かろく禮をなし主人の挨拶あらば蒸菓子ならば紙にとり紙にてわるか揚枝にて割りて口に入るゝこと。<br>干菓子の類は紙の上にて兩手にて適宜に割りて食すること。<br>は揚枝をつけて持ち出で紙の折目の方を客の方に向け客の正面四五寸の所に進むべし<br>一、受け方 | | 一、煙草盆は把手を左右にし火入れを客の左隅に灰吹を向側の右隅にし客の前に進む<br>一、隅 |

| | | |
|---|---|---|
| 一〇 | 同 | 一、訪問及接客<br>イ、案内及着席<br>ロ、接待<br>座蒲團<br>煙草盆<br>團扇<br>茶菓子<br>進め方<br>受け方<br>練習<br>六、退出及送客 |
| 二 | | |

一、坐　席

1、同席者尊長なるときは已は下座に著くべし

2、座蒲團を進められたるときは會釋して正しく其の上に坐すべし。

3、着席の際は戸障子、襖等の開閉の妨とならざる樣注意すべし。

一、案内及取次

1、訪問のときは入口にて案内を求め取次のものに一禮して氏名をつげ又は名刺を出して簡短に來意を述ぶべきこと

2、案内を乞ふ人あらば取次のものは直に出でゝ禮をなし後氏名を問ひ又は名刺を受けて來意を聞き間違ひなき樣取りつぐこと

3、訪問を受けたるもの不在なるときは必ず先方の氏名と來意とを尋ね間違ひなく傳ふること



4、客の履物及道具は直に整へおくこと

一、應　接

1、訪問したるときはみだりに他の室内等を見廻すが如き擧動あるべからず

2、應接中咳嗽等の出るときは下坐の方に向き靜かに之れをなすこと

3、客あるときは家人は妄りに其の室に入るべからず又高聲に談笑し叱咤等なすべからず

一、退出及送客

1、退出のときは挨拶をなし後靜に立ち出で主人の見送りは一應辭退するをよろしとす

2、客の歸るとき表口まで見送りをなすべきこと

3、客歸りたるとき直ちに戸障子を閉づべからす

4、客歸りたる後直ちに談笑すべからす

一、本學年第一學期第十、十二、十四、第二學期第二、週參照

一、廻禮及賀狀
1、教師、親類、友人等には廻禮をなすか又は賀狀を送るを禮とす
2、廻禮及賀狀を受けたるときは必ず返禮をなすを禮とす

一、服　裝

イ、上　着
冬物は黒無地五つ紋を正式とす　但塲合に依りては縞物等を用ふるも妨なし

ロ、下　着
冬物は白又は鼠色を正式とす　但し小紋形更紗形及縞物等を用ふるも妨げなし

ハ、襦　袢
紋付の下には白衿を正式とす

ニ、足　袋

| | |
|---|---|
| 一四 | 祝賀 |
| 一 | 一、年賀の心得<br>イ、廻禮及賀狀<br>ロ、服　裝<br>ハ、名刺の差出し方 |

白足袋

ホ、帶
丸　帶
袴(丸帶の代りに袴を用ふるも禮服の格には變りなし)

ヘ、羽　織
女子は羽織を用ひざるを正式とす

一、名　刺
名刺は繪模樣あるもの又は金縁あるもの等は用ひざるをよしとす

第三學期

| | |
|---|---|
| 二四 | 戸障子の開閉 |
| 二 | 一、障子の開閉<br>立、坐 |

一、祭祀儀式等の塲合に於て座敷の戸障子襖等を開閉せんとするときは跪きて之れを行ふべし

一、右に開かんとするときは右手を引き手に掛けて少しく開き左手を下部に掛けて押開

| | | |
|---|---|---|
| | 六八 | 授受進撤 一、火鉢の出し方 二 |
| 一〇 | 授受進撤 一、證書の受け方 一 | 一、兩手の四本の指を底にまわし拇指を以て之れを支へて持ち出すこの際把手あるものは客の左右になる樣にし火箸は圓形角形共に客の右向ふに斜に立てゝ出すべし兩臂は張らぬ樣にし高さは前腕の平になる位にするをよしとす<br>一、靜に出で適當の場所にて來賓、及職員に一禮をなし更に進み授くる人の正面三歩位前にて踏み止まり一禮をなし再び進み出で先づ左手を以て證書の左緣を保ち直に右手を右緣にかけて確に受け其の儘三歩退きて止まり一禮をなし來賓の方に向ひて廻り適くべし之を右に閉づるには下部を持ちて引き寄せたる後左手を引手に掛けて正しく之れを閉づるを例とす<br>左に開き又は閉づる場合は前の反對に爲すべし |





## 尋常科第六學年

| 週 | 題目 | 教授事項 | 時間 | 要領 |
|---|---|---|---|---|
| | 起坐歩行 | 一、廻り方(立)<br>二、膝行 | | 一、廻り方<br>イ、立ち止りたる場合に於ては向かんとする方の足を引くと共に其の方に徐に廻るべし<br>ロ、歩みならが廻る場合に於ては一旦兩足を揃へ踏み止まりて後ち廻るが正式なれ<br>ひて廻り適當の位置まで下り來賓及職員に一禮して着席すべし<br>折りて一方に持つ場合は右手に持つをよろしとす |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 二 | | 一 | ども場合によりては兩足を揃ふるに及ばず運びたるまゝの足先にて靜に廻るも妨げなし、此の場合には常に踏み出したる方の足と反對の方向に廻るべし<br>二、膝　行<br>兩手を膝の前につき先づ兩手を同時に前に出し次に膝を右左或は左右交互に出して前進すべし。後進は左膝を引くときは左手右膝を引くときは右手を引き交互に後進すべし。 |
| 四 | 敬禮 | 一、行き逢ひの禮品物を持ちたる場合 | 一<br>尋五第一學期第六週參照<br>一、帽子を戴けるときは右手にて之れを取り其の內面を內に向けて右股の外側に輕く觸るゝ程に爲すべし<br>一、傘其の他の物を右手に携へたるときは之れを左手に持ち換へ或は左腋に抱ふべし<br>一、兩手に物を携へたるときは其の儘にて敬 |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 六 | 授受進撤 | 一、茶の進め方<br>盆にて多人數に進むる場合 | 一<br>禮するも妨げなし<br>一、客多人數なる場合には盆に載せて持ち出で茶托ある場合には一先づ已が下座に置き上席より順に茶托をとりあげ進むべし<br>但し一人一人立つに及ばず膝行にて次客に進むるに適當なる處まで進み然る後進むべし<br>茶托なき場合は盆にのせたるまゝ上席より順に進むべし |
| 八 | 同 | 一、座蒲團、團扇の進め方受け方復習 | 一<br>一、尋五第一學期十四週參照 |
| 一〇 | 同 | 一、コーヒーの進め方受け方 | 一<br>一、進め方<br>把手を客の左にして受皿にのせ匙を茶碗の手前に柄を右にして載せ置き煎茶と同じ方法にて進むべし<br>一、受け方 |

| | | |
|---|---|---|
| 一四 二二 | | 先づ茶碗の把手に左手を掛け右手にて匙を取りて中をかき廻し匙を元の皿に置き把手を右にまわし坐したる場合は左手に受け皿を持ちて膝の上に置き右手にて取り上げて飲み腰掛けたる場合は茶碗のみ取り上げて飲むべし |
| | 見舞進物 | |
| | 一、見舞<br>暑中<br>病氣<br>災害等 | 一、一般心得<br>イ、暑中、寒中、病氣、災害等の見舞には自ら行くを禮とす、遠隔の地には書狀を以てなすべし<br>ロ、見舞を受けたるときは答禮を怠るべからず<br>ハ、病氣の見舞には病狀に依りては病床に臨まざるを可とす<br>ニ、病人に面會する場合は特に談話擧動を慎むべし<br>ホ、災害の見舞には必要に應じ助力を爲す |
| | 一、進物に對する注意及包方書 | |
| 二 | | |



を禮とす

二、進物に對する注意及包方書方

イ、注　意

1、贈物の袱紗、風呂敷若は容器等を返す時は婚禮及凶事の場合の外移紙を入るゝを例とす、袱紗は之れを疊み先方の器具に載せて返すべし

2、人に物を贈らんとするときは誠意を表することを旨とすべく身分不相應の贈物を爲し若は濫に之れを爲すは禮にあらず

3、贈物は場合に應じ慣習に從ひて其の種類數量等を適當に選定すべし

4、普通の訪問には手土產を携ふるを要せず

ロ、包方書方

1、進物を包むには白紙を用ふべし其の包み方は紙の相當のところに品物を置

き先づ左方を折り次に右方を折るべし
金子等の塲合には更に上下を折りて長方形と爲すべし

2、進物には通例水引を掛け熨斗を添ふるを例とす　但し魚鳥を贈る塲合及凶事の塲合には熨斗を添へざるものとす
熨斗紙及書熨斗は略式なれば目下の者以外には決して用ふべきものにあらず

3、水引は吉事或は普通の塲合には紅白或は紅金のもの凶事の塲合は黑白若は白のものを用ふべし。黑白の水引に代ふるに元結を用ふるは略式なり

4、水引を掛くるには常に白又は金を左にし兩輪に結ぶべし　但婚姻緣組及凶事には結切にすべし

5、表書は塲合に應じ凡左の例によるか又は品目を書すべし　但凶事の塲合を除く外「粗品」とのみ表書することあり

但氏名を記せんとするときは左部の下方又は中央に書すべし。

一、見舞の塲合
　御見舞
　暑中御見舞
一、謝禮の塲合
　御禮、謝禮

6、金子を贈る塲合は包紙の內部に其の額を記入するを可とす

## 第二學期

授受進撤

一、帽子の進め方受け方　二

一、杖傘類進め方受け方　一

一、帽子の進め方受け方
帽子を進むるには其の前を先方に向け內面を表はすことなく兩手にて緣を持ちて出すべし。山高、中折の如きは中帶の結び目を己か右とすべし
受くるには山高中折等は右手にて前緣を持ち左手は左緣を下より受け庇あるものは庇

訪問迎接

一、一般心得
二、案内及取次
三、着席
四、挨拶
五、接待
座蒲團
コーヒー
進め方受け方練習
六、退出及送客

を右手にて取るべし

一、杖傘類の進め方受け方

杖傘類を進むるには右手にて柄を持ち先方の人が直ちに持つべき部分を取り得るやうにして渡すべし

坐りながら渡すには右手にて下部を左手にて中ごろを持ちて斜めに先方の右手の方に柄が向く樣にして渡すべし

一、一般心得

イ、訪問は急用の外成るべく早朝夜分食事の時其の他先方の迷惑となるべきときをさくべし

ロ、先方の他出せんとするとき又は取込の際は急用の外は面會を求めざるを可とす

ハ、人を訪問したるときは帽、襟卷、外套等を携へて客室に入らざるを例とす

ニ、人を訪問したる時は長坐せざるを可と



帽子、杖傘類進め方受け方

す

ホ、事ありて訪問を爲したる時は直に用事を述ぶべし

ヘ、用事ありて面會を求めんとするときは成るべく豫め先方の都合を聞き合はすべし

ト、訪問を受けたるときは成るべく速に面會すべし

チ、訪問迎接には約束の時日を違ふべからず

一、案内及取次

イ、尊長來訪のときは主人自ら迎へて案内すべし

一、挨拶

イ、客室に案内せられたるときは主人に挨拶せし後に著席すべし椅子、座蒲團に著きたる後主人出で來りたるときは之れを離れて挨拶すべし

ロ、客室に案内せられたるとき先客あらば之れに對して敬禮すべし

ハ、挨拶は先づ主人に之れを爲し次に同席者に及ぶべし同席者多人數なるときは一同に向ひ敬禮すべし

一、著　席

イ、座席は普通尊長に對しては床の前に之れを設け其の他に對しては床を側にし入口より遠き方に之れを設くべし

ロ、著席は主人の指圖に從ふべく固辭するは宜しからず

一、接　待

イ、應接中は濫に席を離るべからず、止むを得ざるときは先づ挨拶して席を離るべし

ロ、應接中倦厭の態度を示すが如きことあるべからず

ハ、客の辭し去らんとするときは濫に引き



止めんとするはよろしからず

一、退出及送客

イ、退出するには話の都合を見計らうべし若し食事の仕度などありて引き止められたるときは之れを固辭するは禮にあらず

ロ、他の客來りたるときは己の談話は成るべく速に之れを了へて辭し去るべし

ハ、主人は客を表口まで送り出で客の支度整へるとき挨拶を述べ少時其の姿を見送りて後戸障子を閉づべし。客の歸りたる後大聲に談笑すべからず

ニ、客の外套等を纏はんとするときは之れを手傳ひ夜分又風雪のときは提灯雨具を用意し老幼女子に對しては人を付添へ其の家に送らしむることあるべし

一、尋五、第二學期十、十二週及本學年第二學期二週參照

| | | |
|---|---|---|
| 祝賀 | 二、一般心得 | 一、一般心得<br>1、祝賀、見舞、吊問には自ら行くを禮とす<br>2、慶吊、儀式等の場合は相當の衣服を着用すべし<br>3、會葬の際は靜粛にして哀悼の意を表し式場に到らば氏名を通じ葬儀終りたる後に退散すべし<br>4、會葬の往復には他人を訪問せざるを可とす<br>5、一家の祭日又は忌日には篤く祭祀を營み墓參するを例とす<br>6、忌服中は特に謹愼の意を失はざるやう注意すべし |
| 吊問 | 一、進物 | 一、進物<br>書方<br>吉事の場合、御祝　御祝儀　壽等<br>凶事の場合、御靈前　玉串料(神式)　御香典(佛式)等 |
| 會葬 | 包物復習 | |
| 家例及祭祀 | | |







| | | |
|---|---|---|
| 祝賀 | 一、正月の儀式 | 年始の場合、御年玉等<br>歳暮の場合、御歳暮等<br>本學年第一學期第十二、十四、週參照 |
| | 熨斗三方進め方<br>土器受け方<br>取肴 | 一、熨斗三方進め方受け方<br>三方のつぎ目が客の手前になる樣左手を透彫にかけ右手を緣にかけ稍高めに持ちて客の前三尺位のところに到りて跪き一應三方を置き更に兩緣を持ちて進むべし<br>已が前に進められたるときは三方の前緣に兩手をかけ輕く一禮すべし<br>一、土器進め方受け方<br>左手にて透彫のところに手をかけて三方をもち右手にて銚子の柄を持ち口を三方の方に向け凡そ三方の脚のところと同じ高さにして客の前に持ち出て先つ銚子を置き次きに右手を添へて三方を置き然る後進むべし次ぎに銚子をとりあげ左手を以て蓋をおさ |
| | 茶火鉢進め方受け方<br>座蒲團復習 | |

へ客の望みに任せ三ごんにつぐべし
進められたるときは一禮して一番上の土器を兩手にて取り上げ下座の方三方の緣とほぼ同じ高さ位に出して受け靜に呑み懷紙にて緣を拭き元に返して一禮すべし
取肴は小皿に盛り盆に載せ箸を添へて進むるを本式とすれども同輩及目下のものには盆を省くも妨げなし
一、尋五第三學期六、八、第一學期一〇、三、週參照

食事

一、一般心得
一、普通膳部の整へ方
一、膳部進め方受け方食し方
一、給仕

一、一般心得
イ、食事の始終には挨拶をなすべく食事中は容儀を亂すべからず
ロ、食物を身邊及器中に取り散らさざるやう注意すべし
ハ、食事のときは口をならすべからず
ニ、食器を手荒く取り扱ふべからず



二四六

ホ、食事中は話題に注意すべく又食物を口にしながら妄りに談笑するはよろしからず

一、普通膳部の整へ方

二

一、進め方受け方食し方
イ、膳を進むるには先方に向けて其の中程を持ち高く捧げ氣息のかゝらぬ樣にして持ち出づべし
ロ、膳を進められたるときは會釋すべし
ハ、椀の持ち方は兩手にて取り上げ左手に

載せ拇指を椀側に當てゝ支ふるものとす

ニ、椀の蓋をとるには片手を椀に添へ他の片手にて取り膳の左方のものは左側に右方のものは右側に置くべし

ホ、箸は膳の緣にかけあるものは直に下よりとり藥指と小指とにて一本を支へ他の三指にて一本を動かす樣にすべし

ヘ、配膳終りたるときは主人は客に對して挨拶をなすべし

ト、客は主人の挨拶了りたる後に箸をとるべし、同席者あるときは尊長の箸をとりたる後に取るべし

一、給仕

イ、配膳給仕は上座の客を先にすべし、膳を撤するときも亦同じ

ロ、給仕の際は容を整へ身體を端正にし特に手指を清潔にすること

ハ、飯汁其の他のものを盛り換ふるには盆



| | |
|---|---|
| 八 | |
| 告送別及送迎 | 一、一般心得<br>一、進物包物書方復習 |
| | |
| | |
| 一、一般心得<br>イ、長期の旅行又は轉任等の場合は親戚知人近隣等に對し相當の挨拶をなすべく之れを受けたるときは速に答禮をなすべし<br>ロ、尊長又は近親のもの長期の旅行をなし又は轉任等の際は停車場又は波止場に見送り其の來著の際は之れを出迎ふるを禮とす<br>ハ、旅行等の際送迎せられたるときは速に答禮すべし<br>一、進物、包方、書方<br>イ、餞別の場合、御贈、御餞別等<br>ロ、安著歸宅の場合、御土產等<br>一、本學年第一學期第十二、十四、週第二學期八、十、週參照 | を以て其の器を受け又は進むべし客は兩手を以て器を授受すべし |

# 高等科第一學年

| 週 | 題目 | 教授事項 | 時間 | 要領 |
|---|---|---|---|---|
| 一〇 | 授受進撤 | 一、證書の受け方復習 | | 一、尋五第三學期第十週參照 |
| 二<br>四 | 起坐<br>歩行 | 一、立ち樣<br>二、坐し樣<br>三、行き合ひの禮<br>1、品物を携へざる場合<br>2、兩手に物を持ちたる場合<br>3、目上、同輩の場合 | 二 | 一、尋五第一學期第二六週參照<br>一、尋六第一學期第四週參照 |
| 六 | 敬禮 | 一、人の前を過ぐる時の禮<br>一、我が前を通る人に對する禮<br>立、坐<br>一、坐禮<br>普通禮<br>最敬禮 | 一 | 一、尋五第一學期第四、八週參照 |
| 八 | 授受進撤 | 一、茶の進め方受け方<br>客前にて湯のさし方及つぎ方<br>一、廻り方 | 一 | 一、尋五第一學期第十二週參照<br>一、尋六第一學期第六週參照<br>一、兩手を膝に置きて一應爪立て廻らんとする方の膝をあげ反對側の膝を押す樣にして半廻轉し立ちて先方に進むべし |
| 一〇 | 同 | 一、座蒲團の進め方受け方二人以上に一度に持ち出でゝ進むる場合<br>一、膝行 | 一 | 一、二人以上の客の場合には適當の枚數だけを重ねて其の左右の中央を兩手にて持ち上座の客より順次進むべし<br>一、尋五第一學期第十週參照<br>一、尋六第一學期第二週參照 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一二 | 同 | 一、團扇の進め方<br>受け方<br>二人以上の客に一度に持ち出て、進むる場合 | 一 |
| 一四 | 見舞<br>進物 | 一、見舞<br>暑中<br>病氣<br>災害<br>一、進物に對する注意及包方書方 | 一 |

一、尋五第一學期第十四週參照
一、尋五に於て授けたる要領により數本重ねて持ち出で客の前に至り一先づ已が右側にたき一本づゝとりて上席の客より順次進むること

一、尋六第一學期第十四週參照
一、進物に對する注意
イ、贈物は成るべく自作手製の物品、居住地の特産物等につき先方の實用若しくは嗜好に應ずべきものを選ぶをよろしとす
ロ、災害慰問の場合に於ける贈物はなるべく日用品を可とす
ハ、寫眞の贈答は親密の間の外は濫りに之れをなさざるものとす
ニ、花を贈る場合は其の種類等に注意すべきものとす
ホ、贈物を進むるには先づ相當の挨拶をなし物を出して後一禮すべきものとす
ヘ、贈物を受くるときは先づ鄭重に之れを受け靜に上座に置き一禮して先方の好意を謝すべきものとす



## 第二學期

| | | | |
|---|---|---|---|
| 二 | 授受進撤 | 一、菓子の進め方<br>受け方<br>引き菓子及とり菓子 | 一 |

一、尋五第二學期第二週參照
一、とり菓子の進め方は菓子器に盛りて盆に載せ箸をつけて主人と客との中間に出す此の時には箸を客の方に向けて正しく置くべし。但し疊の敷き合せ又は緣の上に置かざる樣注意すべし
受け方は主人より進めらるゝこと一二回に及べば徐ろに菓子器を我が前に引きよせ、懷紙を一枚出し之れを四つ折位にし膝の前に置き干菓子ならば二三種蒸菓子の如きものは一個をとり菓子器を元の位置にわく若

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | し合客あらば上座の者より始めとりたる後は次の人の前に置きた先きにと挨拶すべし |
| 四 | 同 | 一、煙草盆の出し方 | 一、尋五第二學期第八週參照 |
| | | 一、火鉢の出し方 | 一、同第三學期第六、八週參照 |
| 六 | 祝賀吊問 | 一、一般心得 | |
| 八 | 會葬 | 一、進物に對する注意及包方書 | 一、尋六第一學期十二、十四週及第二學期八、十週參照 |
| 一〇 | 家例祭祀 | 方復習 | |
| 一二 | 祝賀 | 一、正月の儀式 | 一、尋六第二學期十二、十四週參照 |
| 一四 | | 熨斗土器三方組附 進め方受け方 | 一、本學年第一學期第八、十、第二學期四週參照 |
| | | 座蒲團火鉢茶 進め方受け方復習 | |



| | | | |
|---|---|---|---|
| | 授受進撤 | 一、帽子、杖、傘提灯類の進め方受け方 | 一、尋六第二學期第二週參照 |
| 二 | | | 一、提灯を進むるには豫め新しき蠟燭を立て火を點し先方の受けやすき樣にして出すべし又場合によりてはマッチを添へたくをよしとす |
| | | | 提灯を返す場合には必す新しき蠟燭にとりかへたくべし |
| 四 | 訪問迎接 | 一、一般心得 | 一、尋五第二學期第十、十二週參照 |
| 六 | 招待 | 一、案内及取次 | 一、尋六第二學期第四、六週參照 |
| 八 | | 一、挨拶 | 一、招待に對する一般心得 |
| | | 一、着席 | イ、人を招待せんとするときは其の事由、日時、場所等を明かにし凡七日以前に口頭又は書狀を以て案内すべし |
| | | 一、接待 | ロ、忌中の人に對しては招待をなさざるものとす |
| | | 座蒲團火鉢茶菓子 進め方受け方復習 | ハ、招待を受けたるときは謝意を表し速に參否を答ふべし |
| 三 | | 一、退出及送客 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一〇 | 授受進撤 | 一、證書の受け方 | 一 |
| | | | 二、出席の旨を答へたるときは其の約束を違ふべからず、止むを得ざる故障の爲不參するときは直に其の旨を通じ深く之れを謝すべし<br>ホ、出席の場合は時刻を違ふべからず<br>ヘ、人を招待したる場合は主人は勿論其の席に出入する者も亦相當の服裝を爲すべし<br>ト、招待に應じ出席せんとするときは相當の服裝をなすべし<br>チ、招待に對する答禮は成るべく速に自ら往きて之を述べ若は禮狀を送るべし<br>リ、饗應終りたるときは相當の時間を見計らひて退出すべし、已正客ならざるときは正客の退出を待つを禮とす |
| | | | 一、尋六第三學期第十週參照 |





# 高等科第二學年

| 週 | 題目 | 教授事項 | 時間 | 要領 |
|---|---|---|---|---|
| 二 四 | 戸障子の開閉 | 一、障子襖の開閉<br>一、引き戸の開閉 | | 一、尋五第三學期第二、四週參照<br>一、引き戸の開閉<br>右開なる場合は把手を右手に採りて之れを開き室内に入り内側の把手を左手に持ち換へて正しく之れを閉づべし |
| 六 | 訪問迎接 | 一、團扇<br>座蒲團<br>煙草盆<br>茶<br>菓子<br>進め方受け方<br>復習 | 一 | 一、高一第一學期第八、十、十二週第二學期二、四週參照 |
| | 食事 | 一、食事<br>一般心得 | | 一、尋六第三學期第二、四、六、週參照<br>一、一般心得 |

| | | |
|---|---|---|
| 一〇 | 八 | 調膳の仕方<br>進め方受け方<br>食し方<br>給仕の仕方 |
| | 二 | |

イ、汁あるもの又は遠き位置にあるものは食器を取り上げて食すべし、刺身を食するには刺身猪口の中に先づわさび又は大根たろし等を入れ上側よりとりて猪口につけ猪口の縁にて汁をきり食すべし

ロ、食事後湯茶を呑むとき口中を嗽くことあるべからず

ハ、揚枝を使ふときは成るべく人目に立たざる樣にすべし

ニ、頭付を食するとき上側を食し終らば頭をはなさぬ樣に注意し上下にかへして下側を食するをよろしとす左右にかへすはよろしからず

ホ、香の物は湯を飲む場合に食すべし

ヘ、饗應中好まざるものは手をつけざるをよろしとす

ト、食事にかゝる場合は先づ膳を膝の元まで引きつくべし



| | | |
|---|---|---|
| 一二<br>一四 | 進物 | 一、一般心得<br>一、進物包方書方復習 |
| | | 一、高一第一學期第十四週參照 |

## 第二學期

| | | |
|---|---|---|
| 二<br>四 | 食事 | 一、食事(酒饗)<br>イ、調膳の仕方<br>ロ、吸物膳進め方受け方<br>ハ、盃の進め方受け方<br>ニ、酌の仕方 |
| 二 | | 一、調膳の仕方 |

盃は從來吉事には起し凶事にはふせて出す習慣あるところもあれど衛生上何れの場合もふせる方よろしとす

一、吸物膳進め方受け方

イ、緣のつき目が客の向ふになる樣調膳をなし膳の中ほどを兩手にて持ち客の前適當のところに至りて兩膝をつき兩手にて進むべし

ロ、主人より挨拶あらば先づ膳を膝の元に

引きつけ然る後椀の蓋を去り箸をとり椀をとりあげ箸先を手前にして先づ汁を吸ひ然る後實を食し食し終らば椀を置き箸を納めて後椀の蓋をなすべし

一、盃の進め方受け方

盃の献酬には必ず盃洗を用意すべし

盃は作法上上輩より受くべきものなり

注　意

盃の献酬は我國にては古くより行はれたる習慣なれども衛生上の立場より各自の盃を以て献酬にかふる樣改めたきものなり

一、酌の仕方

イ、德利には必ず袴を用ふべし

ロ、客の前にて德利を振りて酒の有無をためすべからず又一方の酒を他方の德利に移す等のことあるべからず

ハ、燗德利は右の手にて中程を持ち左の手を添ふるをよろしとす



授受進撤

一、手水の進め方受け方

一、床ののべ方受け方

一、手水の進め方受け方

イ、洗面器に冬ならば湯、夏ならば水を適當に入れ盆又はかごに清潔なる手拭を添ふべし石鹸又は洗粉を添ふるをよろしとすうがひ茶碗に微温湯又は水を盛り楊枝及齒磨粉或は鹽をそへて出すべし

ロ、うがひ及手水の水を周圍にこぼさぬ樣注意すべし

一、床ののべ方

イ、通常は東枕か南枕にとるべし、床をのべる場合には必ず頭の方よりのべ疊む場合は下の方より疊むべし、而して其の際決して寢具を踏み又は手荒く取扱ふ樣のことあるべからず

ロ、進められたる場合には挨拶をなし然る後寢衣に着替へぬぎたる衣服は疊みて枕元によせ靜に寢につくべし

| | | | |
|---|---|---|---|
| 八 | 進物 | 一、進物の包方書<br>練習 | 一 |
| 一〇 | 祝賀 | 一、正月の儀式<br>熨斗三方 進め方<br>土器 受け方<br>組肴 練習 | 一、高二第二學期第十二、十四週參照<br>一、高一第二學期第十二、十四週參照 |
| 一二 | | 座蒲團<br>火鉢<br>茶菓子 進め方 受け方 練習 | 二 |
| | 客室の裝飾 | 一、床の間の裝飾<br>一、掛物の掛け方及はづし方<br>一、花器<br>一、疊の敷き合 | 一、床の間の裝飾<br>床の間には正式略式の別あり床と床脇とあるを正式とし床脇なきを略式とす<br>床の間は床柱の方を主位とし其の反對の方を客位とす、普通中央に掛物をかけ客位に花を置き主位に置物を置くべし<br>掛物は裝飾の主にして花と置物とは之れを助くるものなることを忘るべからず |





されば花及置物の位置は掛物によりて變ることあるべし

一、掛物の掛方及はづし方

掛物と掛竿との中央を右手に持ちて床前の疊まで進み床の方を向きて坐し左手に掛物を持ち竿を右膝の脇に置き右手にて紐を解き上部を持ちて一尺計り開き其の上端と軸の方とを左手に持ち右手にて竿をとりて其の竿先きに紐をかけ其の竿のきわを軸と共に左手に持ち竿の稍下部を右手に持ちて下坐の足より床の上に上りて掛け、竿を暫く右方の壁に立てかけ軸の兩端を兩手に持ち掛物が下に開くと共に、次第に身體を屈め靜に手を放ち一旦竿を持ちて膝行にて疊にわり適當のところまで離れて正しきか否かを見定むべし

竿を右手に持ちて床の前に坐し膝行にて床の上に登りて竿を右方の壁に立てかけ坐し

たるまゝ兩手にて兩軸を卷き上げ上方に進むと共に漸次立ち上り三尺計りはなれたる所にて左手にて軸の中央を持ち右手にて竿をとり竿の下方を持ち直し之れに紐をかけて釘より外し掛物の上端を軸と共に左手に持ち右手に竿を持ちて其のまゝ畫の方におり來り竿を右脇に置き掛物を下向に持ち直し兩軸の所を持ちて正しく卷くべし卷き終らば紐の重ならざる樣に卷き端を斜めになれる所に左右にはさみて止めたき竿と共に中央を右手に持ち靜に立ちてかへるべし

一、花器及花臺は常によく掃除し花器中の水のかれざる樣水の中にほこりの溜らぬ樣注意すべし水をさすには水さしの柄を右手に持ち左手を添へ花くばりのところまで水をさすべし

一、畳の敷き合





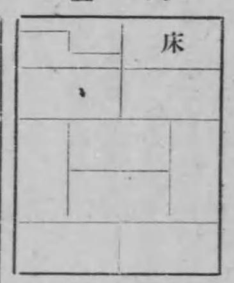
祝賀 一、一般心得

見舞 一、服裝

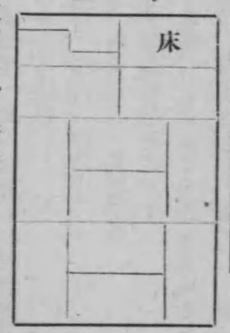
一、服裝

一、和服禮裝標準

八畳




十畳




床前は必す横畳となる樣に敷き合すべし

## 吊問會葬家例及祭忌

### 一、服忌例

上着、冬物は黑無地五ツ紋、夏物は無地五ツ紋を正式とす　但し場合によりて縞物を用ふるも妨げなし

喪服は通例淡黑色無紋のものを用ふ

下着、冬物は白又は鼠色、夏物は白無地を正式とす　但し冬物には更紗形及縞物等を用ふるも妨げなし

肌着、襦袢　白衿

帶、角帶(男)　丸帶(女)

袴、襠高袴を正式とす

教職にある女子は袴を用ふるも妨げなし

羽織、黑五ツ紋(男)女なし、紐は白の丸打

足袋、白

一、洋服の禮服標準

服、通常服　フロックコート

帽、高帽　但場合により黑の山高帽を之に代用することを得

上衣、無地黑絨又は紺絨



チョッキ、前記コートニ仝し　但夏季は白(りんねる)等を用ふるも妨なし

ズボン、目立ざる縞絨を用ふ

シャツ、白(釦適宜)

カラア、立襟又は折襟

ネクタイ、(適宜、但白を用ひず)

手套、茶色又は鼠色の革製

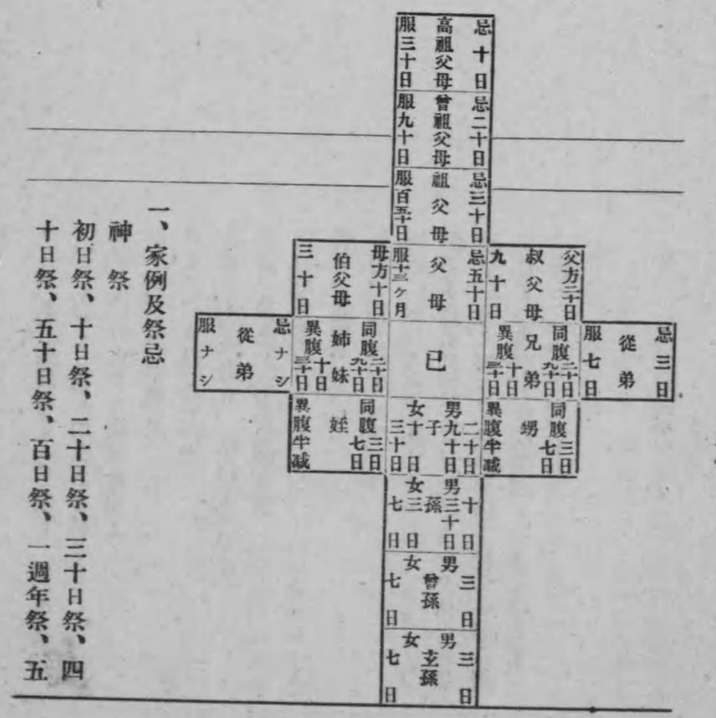
靴、黑の革製

靴下、(適宜)

外套、(仝)

凶事に於ける通常服の場合は「ネクタイ」は黑、手套は黑若くは鼠色のものを用ひ尙黑紗を左腕に纏ひ又黑紗を以て帽の中帶を覆ふなどの慣例あれば注意すべきものとす

一、服忌




一、家例及祭忌

神祭

初日祭、十日祭、二十日祭、三十日祭、四十日祭、五十日祭、百日祭、一週年祭、五



週年祭、十週年祭、二十年祭、三十年祭、四十年祭、五十年祭、百年祭

佛祭

初七日　二七日(十四日目)　三七日(二十一日目)　四七日(二十八日目)　三十五日、六七日(四十九日)　百ヶ目　一週忌　三年忌　七年忌　十三年忌　十七年忌　二十五年忌　三十三年忌　三十五年忌　五十年忌　百年忌

佛事に於ては忌日、月忌と云ふがあり忌日は死亡の正當の月日を云ひ或は之れを祥月とも云ふ月忌は命日とも云ひ毎月の忌日を云ふ

訪問迎接

一、卓子椅子の備へある場合の應對の仕方

一、卓子椅子の備へある場合の應對の仕方

イ、卓子椅子の備へある處に於て對話する場合には先方が立ちたる儘なるときは已も立ち腰掛けたるときは腰掛くるを通例

とす　但し先方が尊長なるときは椅子を進められたる場合の外は腰掛けざるを例とす

ロ、椅子にかけるには左後の方より足を進めて腰掛くるを本式とす然れども場合によりては何れよりするも妨げなし

唯腰掛くる場合衣服の袖及袂を引つかけ又は腰を下ろしてよく椅子を前の方にがた〳〵音をたてゝ引き寄せるはよろしからず

一

## 六　集會　祝祭日

一、集會に關する心得

一、祝祭日に關する心得

一、集會に關する心得

イ、豫め通知を受けたるときは先方に於て準備を要する場合なるときは必ず參否を答へ出席の場合には時刻を違ふべからず

ロ、出席の通知をなしたる後止むを得ざる故障のため出席し難きときは速に其の旨を通知し違約を謝すべし

ハ、出席したるときは係員の指揮に從ひ豫め會場の設備及集會の次第を心得置くべし

ニ、出入著席の際には先を爭ふことなく進退坐作を靜にし尊長老幼等を先きにすべし著席退散の際は隣席の人に會釋すべし

ホ、集會の席上にては耳語し又は多數の人の解せざる辭を用ふる等總て他人の惡感を惹くが如き擧動あるべかず

ヘ、講話演說中は特に靜肅にし止むを得ざる場合の外退出すべからず

一、祝祭日に關する心得

イ、祝日大祭日には特に家の內外を清潔にし必ず國旗を揭ぐべし

ロ、祝日祭日には家例に從ひ神棚に對して拜禮をなし又氏神、產土神等に參拜すべし

ハ、敬意を表する爲め外國の國旗を我が國

| | | |
|---|---|---|
| 一〇 授受進撤 | 一、證書の受け方 | 旗と交叉すときは向つて右（即ち旗竿の本は左方）を我が國旗とす<br>二、弔意を表するため國旗を掲ぐる場合には竿球は黑布を以て之れを蔽ひ且つ旗竿の上部に黑布を附すべし<br>ホ、國旗は濫りに裝飾に用ふべからず<br>一、國旗規定<br>大旗　長一丈三尺　幅七尺　日丸徑五尺四寸六分<br>中旗　長一丈　幅七尺　日丸徑四尺二寸<br>小旗　長六尺　幅四尺二寸　日丸徑二尺五寸二分 |
| | | 一、高一第三學期第十週參照 |

# 凡例

一、以下は尋常四年以下に於て修身書に依て修身教授を行ふに方り作法事項を如何に按排すべきかの調査なり、各學校備付の修身科教授細目に作法事項を整理せらるゝの參考ともならむことを希ふの趣旨に出づ

二、作法事項の按排は修身書所載事項と連絡あり附帶教授に便にして且つ必要なることを眼目とせり

三、作法の形式は文部省制定に係る「小學校作法教授要項」に據ると雖其の學年の程度に依り相當斟酌をなせり

四、材料の選擇は必すしも文部省所定の全部に渉ることを企圖せす概ね各學年兒童の實際生活に必要なるものを採れり、若し夫れ成長後の社會生活に必要なるものに至りては五六年に至りて授くるを適當なりと思惟せり

五、前後の連絡を圖るの目的を以て同一事項の再出、三出するに際しては其の曾て排列せられたる學年名と課名とを附記するを例とせり而して（一の五）は一學年第五課を意味

露光量違いの為重複撮影

す

六、教師用書の注意事項には作法に屬する事項の適切にして必要なるものゝ記載せられたるもの多し然れども本調査は之を再錄せず。唯其の重複繁鎖なるを避けたるなり

# 第三　尋常科第四學年以下に於ける修身附帶作法事項

露光量違いの為重複撮影

す

六、教師用書の注意事項には作法に屬する事項の適切にして必要なるものゝ記載せられたるもの多し然れとも本調査は之を再錄せす。唯其の重複繁鎖なるを避けたるなり

# 第三　尋常科第四學年以下に於ける修身附帶作法事項

# 尋常科第一學年

| 修身科題目 | 作法要目 | 教授要項 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 第一課<br>よく學びよく遊べ | 一、姿勢<br>二、居常の心得 | 一、腰掛けたる姿勢<br>上体を眞直にし手を膝の上に置き前方を見るべし<br>一、天氣の日には運動場に出でて遊ぶへし室内にまごつくべからす<br>二、雨天の時には雨天体操場にて靜かに遊べ<br>三、遊ぶとき泣くへからす | 一、實習批正の場合には足の位置(正しく床上に揃ふ)腰の深さ(腰は深く掛け)等に注意<br>一、禁しられたる遊戯の種類、運動具の種類あらば此の際説示 |
| 第二課<br>時刻を守れ | 一、言語應對<br>一、敬禮 | 一、遲刻したる時の作法<br>敬禮をなし、事由を述べ再敬禮をせよ<br>一、立禮は普通禮<br>眞直に立ち先方に注目し上体を屈す | 一、手及頭の低度は示範に依り大体を會得せしむるを程度とす |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 第三課 勉強せよ | 一、言語應對 | 一、やむを得ず缺席したる時、缺席せんとする時等の作法<br>敬禮をなし事由を述へ再敬禮をなす<br>二、遲刻の事由を屆出づる作法<br>復習(第二課) | | |
| 第四課 友達は助けあへ | 一、居常の心得 | 一、友達の難儀を見たる時の作法<br>直に救ふへし、若し自ら救ふ能はざるときは速に教師に申告すへし<br>家庭ならば最寄の人に通告すへし | | |
| 第五課 喧嘩をするな | 一、言語應對 | 一、詫びる時、詫びられたる時の作法<br>「ゴメン下サイ」「ハイ」と云ふへし<br>一、立禮普通禮<br>練習(第二課) | | |
| 第六課 | 一、居常 | 一、みだりに泣くべからず | 凡て平素の訓練に注 | |



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 元氣よくあれ | の心得<br>二、言語應對<br>三、姿勢 | 一、言語は明瞭なるべし<br>一、立てる姿勢<br>上體を眞直にし前方を正視すへし | | 意 |
| 第七課 からだを大切にせよ | 一、居常の心得<br>二、姿勢<br>三、食事 | 一、夜は早く寢よ<br>二、起床したる時は口を嗽き顏を洗ふべし<br>三、食後にはうがひをせよ<br>四、頭髮、顏面、手足等は常に清潔にすべし殊に用便の際手を洗ふこと、跳足にて歩きたる時は必ず足を洗ふことを敎ふべし<br>五、不潔にするな<br>紙屑、棒切れ等を散亂すな<br>六、トラホーム治療を怠るな<br>一、立てる姿勢(復習)(第六課)<br>二、腰掛けたる姿勢(復習)(第一課)<br>一、一般の心得 | | 二、齒揭枝の使ひ方<br>顏の洗ひ方を敎ふべし<br>三、頭髮、手足等檢査<br>五、トラホーム治療<br>票檢閲、且度を定めて檢閲すること<br>を約束すへし<br>一、辨當を持ち來らしめ會食して實習<br>間食は午後三時頃一回は採るも可但しねだるべからず |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 食物を食ひこぼすべからず<br>食物は急き食ふべからず<br>間食を少くせよ<br>水を飲むな | | |
| 第八課<br>行儀をよくせよ | 一、敬禮<br>二、居常の心得 | 一、立禮普通禮<br>復習(第二課第五課)<br>二、坐禮普通禮<br>兩手をつき上體を屈す<br>一、衣服は正しく之を著用すへし<br>二、帽子は正しく冠るべし<br>三、履物は揃へて脱くべし<br>四、父母長上歸宅の際は「たかへり」又は「たかへりなさい」と云ふべし<br>五、父母長上外出の際は「いつていらつしやい」と云ふべし<br>六、起床就寢の際は父母長上に「たはやう」「たさきに」と云ふべし | 二、兩手の位置(膝前に八文字形に置く)兩肘の模樣(膝の兩側に近け)及頸を屈せざること腰を上げざること等は示範に依りて大體を會得せしめ甚しきものは實習の際批正<br>一、服裝檢査をなすべし<br>三、履物は以後特に |



| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 七、登校下校の際は教師に挨拶すへし<br>八、外出歸宅の際は父母長上に「いつてまいります」「ただいま」と云ふべし<br>九、來客ありたる時は禮をなすへし | 不斷の注意<br>七、以後必ず實行せしむへし、兒童忘れたる時は教師より「たはよう」「さよなら」と云つてやるべし |
| 第九課<br>整頓 | 一、居常の心得<br>二、戸障子の開閉 | 一、物品整頓に注意すべし<br>學用品包み方、持ち方、机内の整理方<br>履物の脱き方(復習)(第八課)下駄傘棚等の整理方<br>一、戸障子は靜かに開閉すへし又開け放すへからず殊に便所の戸に注意すべし | 一、以後時々校内其の他整頓檢査を行ふべし |

此の頃にて夏休となるべし、夏休前には休中の心得を說示す　一、運動　一、衞生
一、學業　一、行儀等

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第十課 物を粗末にあつかふな | 一、居常の心得 | 一、學用品を大切にせよ<br>二、遺失物なき樣注意せよ<br>三、遺失物、拾得物ありたる時の作法<br>學校ならは先生其の他ならば父母又は巡査に屆出 | 一、學用品檢査 |
| 第十一課 親の恩 | 一、居常の心得 | 一、父母長上外出歸宅の際の作法<br>二、起床、就寢の際の作法<br>三、歸宅の際の作法<br>以上復習(第八課)<br>四、外出の際は豫め行先、歸宅の時刻を父母長上に告げ許可を受くべし而して其の時刻を過くへからず | |
| 第十二課 親を大切にせよ | 一、居常の心得 | 一、前課に同し(復習)(第十一課、第八課)<br>二、遺失物に關する注意(復習)(第七課) | |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 第十三課 親のいひつけを守れ | 一、居常の心得<br>二、食事の心得 | 三、食事一般の心得(復習)(第七課)<br>一、父母の命には快く速に「はい」と答ふべし<br>二、外出の際の作法(復習)(第十一課)<br>一、食物の好嫌を云ふべからず | |
| 第十四課 兄弟仲よくせよ | 一、授受進撤 | 一、物を貰ひたるときは兩手にて受け「有りがとう」と云ひて戴くべし | |
| 第十五課 家庭の樂 | 一、食事の心得 | 一、一般の心得<br>食事の始終には挨拶をなすべし「いただきます」「ごちそうさま」<br>食物を食ひ散らすべからず(復習)(第七課)<br>食物の好嫌を云ふべからず(復習)(第十二課)<br>食物は急ぎ食ふべからす(復習) | 一、箸の持ち方を誤る者なきか注意<br>學校に於て勵行すへし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | （第十二課）<br>食事中は四邊を見廻すべからず<br>食器を手荒く取扱ふべからず<br>食前手を洗ひ食後口を嗽くべし | |
| 第十六課<br>天皇陛下 | 一、敬禮<br>二、祝祭日 | 一、立禮最敬禮<br>立てる姿勢を取り次に上體を徐に前に傾け指尖が膝頭の邊に達するまで屈し凡一呼吸の後徐に原の姿勢に復す<br>二、低頭<br>頭のみ屈す<br>一、國旗を掲くべし<br>二、式場にては靜肅なるへし<br>三、家の内外を清潔にすべし | これより以前に於て最敬禮實施の機會あらば其の機會に於て教ふること<br>其の場合に於ては本課に附帶して復習 |
| 第十七課<br>忠義 | 一、敬禮 | 一、神社御陵の前を過くる時の作法<br>帽を脱き敬禮すべし | 二、附帶して勅語奉讀の時の心得を授くへし |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 第十八課<br>過をかくす<br>な | 一、言語應對 | 一、詫ひ又は詫びられたる時の作法<br>（復習）（第五課） | |
| 第十九課<br>うそを云ふ<br>な | 一、居常の心得<br>二、敬禮 | 一、近隣の人其の他親戚知人に逢ひたるときは禮をなすべし<br>二、近隣に病人又は凶事等のある場合は靜肅にすべし<br>一、行逢の禮<br>知人に行逢ひたるときは少し手前にて禮をなすへし | |
| 此の頃にて冬季休業となるべし其の心得を授くへし　一、衞生（過食夜更かし）<br>二、廻禮 | | | |
| 第二十課<br>自分の物と<br>人の物 | 一、物品貸借 | 一、已むを得さる場合の外借用すべからず<br>二、借る時の作法「わかし下さい」<br>三、借用品に對する心得 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 丁寧に取扱へ、速に返せ<br>四、返す時の作法<br>「ありがたう」 | |
| 第二十一課<br>近所の人々 | 一、居常の心得<br>二、敬禮 | 一、近隣に對する心得<br>復習(第十九課)<br>一、行逢の禮<br>知人に行逢ひたるときの作法復習(第十九課) | |
| 第二十二課<br>むもひやり | 一、居常の心得 | 一、老幼不具者に對する心得<br>老人をいたはれ<br>弟妹及自分より幼き友達を可愛がれ<br>不具者を笑ふことなかれ、之を助けよ | |
| 第二十三課<br>生きものを苦しむるな | 一、居常の心得 | 教科書(教師用)注意事項を具體化せは足るへし | |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 第二十四課<br>人に迷惑をかくるな | 一、居常の心得<br>二、歩行 | 一、用便は便所に於て爲すへく、且之を汚さざるやう注意すへし<br>一、同伴者と横列を作りて他人の通行を妨くべからず<br>二、道路に佇立し又は遊戯を爲して他人の通行を妨くべからず<br>三、道路に於ては濫りに痰唾を吐くへからす | 一、用便の仕方に就ての具體的注意<br>×小便は踏段に上りてなすこと<br>×便所の戸は出入とも正しく閉つること |
| 第二十五課<br>よい子供 | 一、授受<br>進撤 | 一、證書の受け方<br>授ける人の少し前にて敬禮し再進みて兩手にて取り少し退き敬禮して退く | |

# 尋常科第二學年

| 修身科題目 | 作法要目 | 教授要項 | 備考 |
| --- | --- | --- | --- |
| 第一課 親の恩 | 一、居常の心得 | 一、起床就寢の際には父母長上に禮をなすべし(一の八)<br>二、外出歸宅の際には父母長上に禮をなすへし(一の十一、一の十二)<br>三、外出する時は豫め行先、歸宅の時刻を父母長上に告げ其の許を受くべし、歸宅の時刻を過すべからず(一の十一、一の十二) | |
| 第二課 孝行 | 一、居常の心得 | 一、第一學年第十三課親のいひつけを守れ參照<br>二、使の途中遊ぶべからず | |
| 第三課 兄弟仲よへせよ | 一、授受進撤<br>二、居常の心得 | 一、第一學年第十四課兄弟仲よくせよ參照<br>二、人より物を貰ひたる時は兄弟分配せよ | |



| | | | |
| --- | --- | --- | --- |
| 第四課 仕事にはげめ | 一、居常の心得 | 一、當番及作業に對する心得 | 一、學校の規程及日常見る所に依り具體的に說示するを要す |
| 第五課 親類 | 一、言語應對<br>二、敬禮 | 一、言語は明瞭なるべし(一の七)<br>二、下品なる言葉及訛音はなるへく之を避くへし<br>三、他人の氏名を稱するには相當の敬語を用ふべし「〇〇さんを普通とす」但し男兒にして同輩以下の者の姓を呼ふ時は敬語を附せざるも可<br>一、立禮普通禮(一の二、一の五、一の八)<br>二、坐禮普通禮(一の八) | 一、發音の不明瞭は子音發聲の弱きに基因するもの多きが如し、國語科と連絡し不斷の注意必要なり<br>二、兒童日常の言語の內下品なる言葉訛音を調査し置きて之を指示し一歩一歩矯正を計るべし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第六課 學問 | 一、姿勢<br>二、居常の心得 | 一、立てる姿勢(一の六、一の七)<br>二、腰掛けたる姿勢(一の一、一の七)<br>一、學用品を大切にせよ(一の一〇) | 一、學用品を檢閲し適當の指導をなすべし |
| 第七課 勤儉 | 一、居常の心得 | 一、當番及作業に對する心得(二の四)<br>二、學用品に對する心得(一の一〇、二の六) | |
| 第八課 祖先を尊へ | 一、祝祭日儀式 | 一、一家の祭日忌日には篤く祭祀を營み墓參をするを禮とす<br>(墓の掃除、參拜の方法等附說)<br>二、忌中は特に謹愼の意を失はざるやう注意すべし<br>(内に死した人ある時は高聲談話し、笑ひ興し或は物見遊山等に行かぬものなり位に取扱ふ) | |
| 第九課 | 一、居常 | 一、學用品其の他の整理に關する心得(一の九) | 一、机内、下駄箱等檢閲 |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 召使をいたわれ | の心得<br>一、言語應對 | 一、召使にも相當の言葉を用ふべし | |
| 第十課 たべものにきをつけよ | 一、居常の心得 | 一、第一學年第七課からだを大切にせよ參照<br>殊に イ、水をのむな ロ、濫りに果物を食ふな ハ、寢冷をするな ニ、齒をみがけ ホ、よくかめ ヘ、食前洗手食後うがひ等を徹底せしむべし | 一、齒を磨くには鹽をよしとす齒磨粉にても可 |
| 第十一課 きまりよくせよ | 一、言語應對<br>二、集會<br>三、居常の心得 | 一、第一學年第二課時刻を守れ、第三勉强せよ第九整頓參照<br>一、出席の場合には時間をちかへぬこと<br>二、室内に於ては帽を戴き或は外套襟卷をつくべからず<br>三、講義演說中は特に靜肅にし己むを得ざる場合の外他出すな | |

| | | |
|---|---|---|
| | | 己むを得さる場合（學校にありては）擧手して教師に知らせよ<br>一、頭髪、顔面、手足は之を清潔にすべし（一の七）<br>二、物品其他の整頓に注意すべし（一の九） |
| 第十二課 臆病であるな | | |
| 第十三課 友だちはたすけあへ | 一、居常の心得<br>二、物品の貸借 | 一、第一學年第四友だちは助けあへ 參照<br>一、親しき間にも禮儀を重んせよ<br>友人間の朝の挨拶、別れの挨拶等を教ふべし<br>一、物品貸借の心得（一の二〇）<br>轉貸すべからず（追加） |
| 第十四課 | 一、居常 | 一、第一學年第八課行儀よくせよ參照 |



| | | |
|---|---|---|
| 不作法のことをするな | の心得<br>二、敬禮<br>三、歩行<br>四、授受進撤<br>五、戸、障子の開閉 | 照<br>立開、隙見、耳語等すべからず（追加）<br>一、第一學年第八課行儀よくせよ參照<br>二、行逢の禮<br>知人に行逢たるときは少し手前にて禮をなすべし（一の一九、一の二一）<br>葬儀に逢ひたるときは其の柩に對し敬意を失はざるよう注意すべし<br>三、人の前を過ぎる時の禮<br>人の相對したる時は其の間を通り過くべからす人の前を通るときは「ごめん下さい」と云ふべし<br>四、注意<br>帽を戴ける時は右手にて之をとり禮をなすべし |

| | | |
|---|---|---|
| | 一、室内の物品は踏み越ゑ跨き越ゆべからず<br>一、物品を授け又は進むるには丁寧に取扱ひ先方に受け易からしむべきこと<br>及物、團扇は柄を先方（及物は及を下）にすへし<br>二、物品を授けられ又は進められたるときは「ありがたう」と云ひ或は禮をなすへし（一の一四）<br>一、戸、障子は静かに開閉すへし又開放すへからず | |
| 第十五課<br>人の過をゆるせ | 第一學年第十八課過をかくすな參照 | |
| 第十六課<br>わるいすゝめに從ふな | | |



| | | |
|---|---|---|
| 第十七課<br>正直 | | |
| 第十八課<br>天皇陛下 | 一、言語應對<br>二、敬禮<br>三、祝祭日に關する心得 | 一、皇室に對する談話には敬語を用ふへし<br>一、立禮<br>最敬禮（一の一六）<br>低頭（一の一六）<br>普通禮（一の二、一の五、一の八）<br>一、第一學年第十六課參照 |
| 第十九課<br>皇大神宮 | 一、敬禮 | 一、其の他の敬禮<br>神社御陵の前を過くるときは帽を脱き敬禮すへし<br>特に參拜したるときは口を嗽き手を清め拜殿の前に至り禮拜すへし |
| 第二十課<br>忠義 | 一、敬禮 | 一、其の他の敬禮<br>軍旗（聯隊旗と云ふ）軍艦旗に對し |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ては敬禮すべし（上復に關しては此の程度にては畧す） | |
| 第二十一課 約束を守れ | 一、集會 | 一、出席の場合には時刻を違ふべからず（二の十一）<br>二、出席の約束を爲したる後止むを得さる故障の爲に出席し難きときは速に其の旨を通知し違約を謝すべし | |
| 第二十二課 恩を忘るゝな | 一、居常の心得<br>一、敬禮 | 一、舊師のもとには時折音信すべし<br>二、近隣の人に對する作法（一の二一、一の一九）<br>一、教師其の他長上我が前を過くるときは立ち又は坐せる儘敬禮すべし、腰掛たるときは立ちて禮をなすへし | |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 第二十三課 辛抱強くあれ | | | |
| 第二十四課 規則にしたがへ | 一、歩行<br>二、居常の心得<br>三、姿勢 | 一、出入禁止の地域田畠等に侵入すべからず<br>二、行列に逢ひたる時は濫に之を横ぎるべからず軍隊は絶對に横切るべかず<br>三、同伴者と横列を作り他人の通行を妨ぐべからず<br>四、道路に停立し又は遊戯等をなし他人の通行を妨ぐへからず<br>五、道路（窓より或は校庭等に於ても）に於て痰唾を吐くべからず<br>一、用便は便所になすこと（一の二四）<br>二、天氣の日には運動場にて遊ぶべし | 二、其の他學校の規程中必要なるものゝ説示又は勵行を促すの機會なり |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 一、立てる姿勢（一の六、一の七、二の六）<br>二、腰掛たる姿勢（一の一、一の七、二の六）<br>三、坐せる姿勢<br>上体を眞直に保ち兩手を膝の上に置き又は輕く組み前方を正視すへし | |
| 第二十五課 船車に關する必得 | 船車に關する必得 | 一、老人には成るへく席を讓るをよしとす<br>二、老人をいたわれ（一の二二） | 二、具体的に指示せよ |
| 第二十六課 よい子供 | 一、授受 進徹 | 一、證書賞狀の受け方（一の二五）<br>追加<br>授くる者の三歩位手前にて一禮し進みて受け再ひ三歩位退き一禮して廻りて元の位置に着くへし | |



# 尋常科第三學年

| 修身科題目 | 作法要目 | 教授要項 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 第一課 皇后陛下 | 一、敬禮<br>二、言語 應對 | 一、立禮最敬禮復習（一の一六、二の一八）<br>二、立禮普通禮復習（一の二、一の五一の八、二の一四、二の一八）<br>三、行幸啓の節の敬禮方<br>イ、行幸啓の際は塀越又は高きところより拜すへかず<br>ロ、行幸啓を拜する際は靜肅にして喧噪亂雜の擧動なく鹵簿通御の後靜に退散すへし<br>ハ、通例行幸啓を拜するには豫め帽、合羽等を脱き傘を疊み御車御通過の際最敬禮を行ふへし<br>但し强雨の塲合は兩具を使用す | ロ、口論、雜談、耳語批評、押合等あるへからす又姿勢を亂し列を亂し先を爭ふ等あるへからす<br>一、敬語の練習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | るも妨なし<br>一、皇室に關する談話には必す敬語を用ふへし(二の一八) | |
| 第二課<br>忠君 | 一、敬禮 | 一、神社に關する敬禮(一の一七、二の一九)<br>附說<br>殿堂其の他に樂書すへからず<br>境内の掲示を守れ | 一、刑法、神祠、佛堂墓所其の他禮拜行に對し公然不敬の所爲ありたる者は六月以下の懲役若は禁錮又は五拾圓以下の罰金に處す |
| 第三課<br>孝行 | 一、居常の心得 | 第一學年第十三課親のいひつけを守れ<br>第二學年第八課祖先を尊へ、第十課たべものにきをつけよ參照 | |
| 第四課<br>兄弟 | 一、授受進撤 | 第一學年第十四、第二學年第三課兄弟仲よくせよ參照 | |



| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 右に追加<br>對者坐したるときは自分も坐して受けよ | |
| 第五課<br>勉强 | 一、居常の心得<br>二、姿勢 | 一、學用品を大切にせよ(一の一〇、二の六、二の七、二の九)<br>書物、筆、記帳其の他<br>一、立てる姿勢(一の六、一の七、二の六、二の二四)<br>二、腰掛たる姿勢(二の六、二の二四) | 一及二に於て腰掛たる姿勢並立てる姿勢に於て本を讀む場合字を書く場合の要領を附說 |
| 第六課<br>規律 | 一、言語應對<br>敬禮<br>集會<br>二、居常の心得<br>三、歩行 | 一、第一學年第二課時刻を守れ第九整頓<br>第二學年第十一課きまりよくせよ參照<br>一、起床就寢食事等時間を定めよ<br>二、就寢の後は猥りに談笑すへからず<br>一、室内は勿論廊下階段等に於ても | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 靜かに歩むべし<br>二、室内の物品は踏み又は跨くべからず(二の一四)<br>三、行列に逢ひたる時の心得(二の二四)<br>四、歩行の際食物を口にすへからず | |
| 第七課<br>正直 | 一、言語<br>應對 | 一、詫び又は詫びられたる時の作法 | 一、單に「ごめん下さい」のみならず二三の實例により適切に指導すへし |
| 第八課<br>友だち | 一、言語<br>應對 | 第一學年第四課友だちは助けあへ<br>第二學年第十三課友だちは助けあへの兩課參照<br>追加<br>一、友達に忠告し又は忠告せられたる時の心得 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第九課<br>師をうやまへ | 一、敬禮<br>二、歩行 | 一、普通禮復習<br>二、尊長に行逢ひたるときは數歩手前にて禮を爲すべし<br>歩みながら爲すべからす帽は勿論肩掛、襟卷を除くべし<br>三、尊長の前を通るときは少しく體を屈め輕く禮をなすべし<br>一、尊長と同行するときは一歩後れて隨行すべし 但し案内の場合は少しく先に行くべし | |
| 第十課<br>規則に從へ | 一、歩行<br>二、船車に關する心得<br>三、居常の心得 | 一、通行止又は立入禁止の箇所及田畠に侵入すべからず(二の二四)<br>一、船車内にて放歌すへからず<br>一、用便は便所にて爲すへく且之を汚すべからず(一の二四、二の二四) | 三、小便と雖便所にてなせ |
| 第十一課<br>行儀 | 一、姿勢<br>二、敬禮 | 一、第一學年第一、六、七課第二學年六、二十四課參照 | |

| | | |
|---|---|---|
| 三、歩行<br>四、言語<br>應對 | 一、復習（立禮、坐禮、行逢の禮）<br>追加<br>傘其の他の物を右手に携へたるときは之を左手に持ち換へ或は腋に抱ふべし<br>兩手共物品を携へて一方に移し難き時は其の儘にて可<br>一、歩行の際には食物を口にすべからず（三の六）<br>一、座敷に於て對話する場合先方が坐せるときは自分も必ず坐して應對すべし<br>二、先方の談話は之を傾聽すへく已れのみ談話すへからず<br>三、他人の談話に差出口をなすべからず | |
| 第十二課<br>勇氣<br>一、言語<br>應對 | 一、言語は明瞭なれ、粗暴、野卑なるべからず | |



| | | |
|---|---|---|
| 第十三課<br>堪忍<br>一、言語<br>應對 | 一、詫び又は詫びられたるときの作法（二の一五、三の七） | |
| 第十四課<br>物事にあはてるな<br>一、食事<br>二、歩行 | 一、食器を手荒く扱ふな（一の一五）<br>二、食物を猥りに口中に押込むな（一の一五）<br>三、急き食ふな（一の一五）<br>一、室内の物品は之を踏み又は跨き越ゆるな（二の一四、三の六） | |
| 第十五課<br>祝日<br>一、祝祭日に關する心得<br>二、敬禮 | 一、祝日大祭日には特に家の内外を清潔にし必ず國旗を掲くべし（一の一六、二の一八）<br>二、國旗は濫に裝飾に用ふべからず<br>三、祝日大祭日には家例に從ひ神棚に對して拜禮を爲し又氏神、産土神に參拜すべし<br>一、最敬禮（立禮）<br>二、神社御陵の前を過ぎるときの敬禮（二の一九） | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第十六課 皇室を尊べ | 一、敬禮 | 一、第一學年第十六課 天皇陛下〕〔第三學年第一課 皇后陛下〕參照<br>二、皇族御成の節に於ける敬禮は行幸啓の際に準すべし | |
| 第十七課 儉約 | | | |
| 第十八課 慈善 | | | |
| 第十九課 恩を忘れるな | | | |
| 第二十課 謙遜 | 一、歩行<br>二、言語應對 | 一、尊長と同行する時の作法（三の九）<br>同輩と雖「どうぞうに先に」と云ひて讓るべし<br>一、途上にて人に物を尋ねんとする | |



| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 塲合は帽を脱きて挨拶し問答の後は謝辭を述ぶべし<br>二、他人の談話に差出口をなすべからす（三の一一）<br>三、先方か用事又は對話中なるときは其の終るを待つべし、急用なるときは「お話中ですが」「お話中失禮ですが」と云ひて後己れの要件を述ぶべし<br>四、先方の談話は之を傾聽すへく己れのみ談話するは宜しからす（三の二） | |
| 第二十一課 寛大 | | | |
| 第二十二課 健康 | 二年第十課一年第七課參照 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第二十三課 自分のものと人のもの | 一、物品の貸借<br>二、居常の心得 | 一、第一學年第二十課、第二學年第十三課、第二十課參照<br>一、遺失品、拾得品に對する心得(一の一〇、一の一二) | |
| 第二十四課 共同 | | 一、近隣の人々(其の他親戚知人)に逢ひたるときは禮をなすべし(一の二二、一の一九、二の二一)<br>二、近隣に病人又は凶事等ある場合には靜肅にすべし(一の一九、一の二一、二の二一)<br>三、立聞、隙見、耳語等すべからず | |
| 第二十五課 近所の人々 | 一、居常の心得<br>二、敬禮 | 一、行逢の禮(一の一九、一の二一、二の一四、三の九、三の二五)<br>二、人の前を過るときの禮<br>人の前を通るときは會釋すべし(二の一四)<br>人の相對したるとき其の間を通り過くべからず已むを得ざる場合は「御免下さい」「御無禮致します」と云つて會釋すべし(二の一四)<br>三、我が前を過くる人に對する禮<br>我が前を過くる人會釋したる時は答禮すべし | |
| 第二十六課 公益 | 一、居常の心得<br>二、歩行<br>三、船車に關する心得 | 一、入浴の際は湯水を汚し又猥りに汲み出さぬこと<br>二、用便は必ず便所に於てなすこと且つ之を汚さざること(一の二四、三の二四)<br>一、道路にて濫に痰唾を吐くべからず(一の二四、二の二四、三の二三)<br>二、同伴者と横列を作りて他人の通行を妨くるな(一の二四、二の二四) | |

| | | |
|---|---|---|
| | | 三、道路に佇立して他人の通行を妨くるな（一の二四、二の二四）<br>一、船車に昇降の際には先を爭ふな<br>二、携帶品の整頓に注意すべし<br>三、車窓より物品を投棄し又は痰唾を吐くべからず |
| 第二十七課<br>よい日本人 | 一、授受<br>進撤 | 一、證書の受け方<br>第二學年第二十六課參照<br>附加<br>三歩退く際は少しく頭を下げ愼みの意を表し一禮して廻る際は來賓の方を向くべし |

# 尋常科第四學年





| 修身科題目 | 作法要目 | 教授要項 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 第一課<br>明治天皇 | 一、敬禮 | 一、行幸啓の節敬禮方<br>尋三第一課參照<br>追加　雜沓の際は老人、婦人、幼者にはなるべく前列の位置を讓るべし<br>二、立禮最敬禮（一の一六、二の一八、三の一）<br>追加　殊更に頸を屈すべからず<br>三、低頭（一の一六）<br>四、立禮普通禮（一の二、一の五、一の八、二の五、二の一四、二の一八、三の一）<br>先つ立てる姿勢を取り上體を徐ろに前に傾け手は自然に下け其の指尖股の中邊に達するを度とす　但し殊更に頸を屈すべからず（正式） | 凡て敬禮には眼の方向に注意すべし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第二課 能久親王 | 一、言語 應對 | 二、皇室に關する談話には必ず敬語を用ふべし(二の一、三の一) | |
| | 一、敬禮 | 一、神社御陵の前を過ぎる時の作法(一の七、二の一九、三の二) | |
| 第三課 忠君愛國 | | | |
| 第四課 靖國神社 | 一、敬禮 | 一、神社御陵の前を過ぐる時の作法(四の二) | |
| 第五課 志を立てよ | 一、居常の心得 | 一、當番作業に關する心得(二の四、二の七) | |
| 第六課 職務に勉勵せよ | 一、居常の心得 | 一、前課に同し | |
| 第七課 皇室を尊べ | 一、言語 應對 | 一、皇室に關する談話には敬語を用ふへし(四の二) | 一、實例により練習 |
| | 二、敬禮 | 一、行幸啓の節敬禮方(四の一) | |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 第八課 孝行 | 一、言語 應對 | 一、座敷に於て長上と對話する場合に先方坐せる場合には自分も必ず坐して應對のこと(三の一一)<br>二、先方の談話は之を傾聽すへく已のみ談話するは宜しからず(三の一一、三の二〇)<br>三、卓子、椅子の備ある處に於て長上と對話する場合は先方が立ちたる儘なるときは已れも立ち腰掛けたるときと雖椅子を進められたる場合の外は腰掛けさるものとす | 長上の椅子に手を掛け又は身體を寄せ掛くるは禮にあらず |
| 第九課 兄弟 | | 三年第四課參照 | |
| 第十課 召使 | 一、言語 應對 | 一、目下の者にも相當の言語を用ふへし<br>物事を依頼するとき、依頼したる | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 事の出來上りたるときの作法具體的に授くへし | | |
| 第十一課 身體 | 一、姿勢<br>二、食事<br>三、居常の心得 | 一、立てる姿勢（一の六、一の七、二の六、二の二四）<br>話すときの姿勢、本を讀むときの姿勢<br>二、腰掛けたる姿勢（一の一、一の七、二の六、二の二四）<br>机に倚りたるときの姿勢、書寫、讀書の際の姿勢<br>三、坐せる姿勢（二の二四、三の二）<br>上體を眞直に保ち兩足の拇指を少し重ね兩手を膝の上に置き又は輕く組み眼は前方を正視すへし<br>一、食物を身邊及器中に取散すな（一の七、一の五、一の一二）<br>二、疊又は敷物の上に落ちたる食物は之を拾ひ食すへからず<br>三、間食をなすへからす（一の一二、一の七）<br>水を飲むへからす（一の一二、一の七）<br>四、急き食ふへからず（一の一一、一の七、一の一五）<br>五、食前洗手、食後嗽口（一の一五、二の一〇）<br>一、第一學年第七課參照 | 髮の洗ひ方を敎ふへし |
| 第十二、十三課 自立自營 | 一、居常の心得 | 一、當番作業に關する心得（二の四、二の七） | 一、家庭に於ける作業に關する注意もなすへし |
| 第十四課 志を堅くせよ | | | |
| 第十五課 | 一、言語 | 一、人に物を尋ぬる時の作法（三の | |

| | | |
|---|---|---|
| 智識をひろめよ | 應對 | 二〇）<br>二、人に物を尋ねられたるときは己れの知れる所は親切に之を告げ知らさるときは丁寧に答ふへし |
| 第十六課 迷信を避けよ | | |
| 第十七課 克己 | | |
| 第十八課 禮儀 | 一、敬禮<br>二、歩行<br>三、言語應對<br>四、訪問迎接<br>五、食事 | 一、立禮普通禮（一の二、一の五、一の八、二の一四、三の一）<br>二、立禮最敬禮（一の一六、二の一八、三の一）<br>三、坐禮普通禮（一の八、二の五、二の一四）<br>先つ坐せる姿勢を取り次に兩手を、膝の前に八字形に置き兩臂を膝の兩側に近け同時に徐ろに上體を屈して坐面に近からしむ<br>四、行逢の禮（三の九、三の二五）<br>五、人の前を過くるときの禮（二の一四、三の九、三の二五）<br>六、我か前を過くる人に對する禮（三の九、三の二二、三の二五）<br>一、行列に逢ひたるときの禮（一の二四、二の二四）<br>二、尊長と同行する時の禮（三の九、三の二〇）<br>三、通行人を指笑し又は之に附き纏ふべからす<br>一、卓子、椅子の備ある處に於て對話する場合の作法（三の八）<br>二、座敷に於て對話する場合の作法（三の一一）<br>三、先方が用事又は對話中なるとき |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | の作法(三の二〇)<br>四、他人の談話は傾聽すべし(三の二〇)<br>五、物を尋ね又は尋ねられたる時の作法(四の一五)<br>一、案内を乞ふ人あらば取次の者は直ちに出でゝ禮をなしたる後氏名を尋ね又は名刺を受けて來意を聞き間違なきやう取次べし<br>二、客の帽、襟卷、外套、履物は整へ置くべし<br>一、給仕の際は容を整へ進退を端正にし特に指を清潔にすべし | |
| 第十九課<br>生物をあわれめ | | | |
| 第二十課 | 一、祝賀 | 一、病氣見舞の心得 | ロ、如何なる時なるかを具體的に授くべし |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 博愛 | 見舞<br>吊問<br>祭忌 | イ、親しき人の家に病人あるときは時々見舞に行くべし<br>ロ、病狀に依りては病床に臨まざるを可とす<br>ハ、特に談話擧動を愼しむべし | |
| 第二十一課<br>國旗 | 一、祝祭日儀式 | 一、敬意を表するため外國々旗と我か國旗とを交叉するときは向つて右を我か國の國旗とす<br>二、弔意を表するため國旗を揭くる場合には竿球は黑布を以て之を蔽ひ且旗竿の上部に黑布を附すべし<br>三、國旗は濫に裝飾に用ふへからず(三の一五) | |
| 第二十二課<br>祝日、大祭日 | 一、祝祭日儀式<br>二、祝賀見舞、弔問等 | 一、家の内外を清潔にし國旗を揭けよ(一の一六、二の一八)<br>二、前課復習<br>三、式場の心得 | |

| | | |
|---|---|---|
| | | 一、祝賀の心得<br>イ、相當の衣服を著用すべし<br>ロ、正しく著るべし（襟元、帶、羽織、袴、紐に至る迄具體的に） |
| 第二十三課<br>法令を重んせよ | | |
| 第二十四課<br>公益 | | 第三學年第二十六課參照 |
| 第二十五課<br>人の名譽を重んせよ | 一、歩行<br>二、言語應對 | 一、通行人を指笑し又は之に附き纏ふな（四の一八）<br>一、他人の氏名を稱する時の作法（二の五）<br>人に對して自己の家族、親戚の氏名を稱する場合には敬語を用ひざるを例とす |



| | | |
|---|---|---|
| 第二十六課<br>人は萬物の長 | | |
| 第二十七課<br>よい日本人 | 一、授受進撤<br>二、祝祭日儀式 | 一、證書、賞狀の受け方<br>一、儀式に關する注意 |

大正六年五月二十五日印刷
大正六年六月一日發行

不許複製

定價金貳拾壹錢
郵送料四錢

編纂者　熊本縣女子師範學校附屬小學校內　教科研究會編
右代表者　生田五郎

印刷兼發行者　熊本市新屋敷町八十九番地　伊形精一
右同所（電話八二六番）

印刷所　龍雲堂

販賣所　熊本市上通町（電話五五番）　長崎次郎支店

90

85
87

終